

第8回 二戸市埋蔵文化財センター

# 発掘調査 報告会



前小路遺跡（二戸市）



史跡九戸城跡(二戸市)



扇田道下遺跡（大館市）

## ◆講演

演題『大館市内の古代遺跡について』

講師：しまかけ たけのり嶋影 壮憲 氏 大館市教育委員会歴史文化課主査/学芸員

## ◆発掘調査報告

令和3年度発掘調査の概要	二戸市埋蔵文化財センター 主事 野辺地 哲史
前小路遺跡・駒焼場遺跡	二戸市埋蔵文化財センター 主任 鈴木 裕一郎
史跡九戸城跡	二戸市埋蔵文化財センター 主事 佐藤 由浩

## ◆発掘調査出土遺物の展示

日時 令和4年3月12日（土） 13:30～

会場 二戸市埋蔵文化財センター会議室

後援 一般社団法人岩手県文化財愛護協会 NPO法人カシオペア市民情報ネットワーク 岩手日報社  
デーリー東北新聞社 九戸城を活かす会 二戸市観光協会

## プログラム

13 : 30	開 会
13 : 35－14 : 35	【講演】 大館市内の古代遺跡について 大館市教育委員会 嶋影 壮憲 氏
14 : 35－14 : 40	質疑応答
14 : 40－14 : 50	休 憩 （※出土遺物展示をご覧ください。）
14 : 50－15 : 00	【令和3年度発掘調査の概要】 二戸市埋蔵文化財センター 主事 野辺地 哲史
15 : 00－15 : 40	【令和3年度調査報告①】 前小路遺跡・駒焼場遺跡 二戸市埋蔵文化財センター 主任 鈴木 裕一郎
15 : 40－16 : 00	【令和3年度調査報告②】 史跡九戸城跡 二戸市埋蔵文化財センター 主事 佐藤 由浩
16 : 00－16 : 10	質疑応答
16 : 10	閉 会

### ● 講演 講師

#### ➤ 嶋影 壮憲 氏 大館市教育委員会 歴史文化課 主査／学芸員

- 1979年 ● 北海道北広島市生まれ（42歳）
- 2002年 ● 札幌学院大学人文学部卒業
- 2002年 ● 江別市役所（臨時）
- 2003年 ● (財)北海道埋蔵文化財センター（臨時）
- 2004年 ● アークビジョン（有）
- 2005年 ● 青森市教育委員会（臨時）
- 2006年 ● 大館市に入庁 教育委員会郷土博物館に配属
- 2017年 ● 教育委員会歴史文化課に改組 現在に至る

#### ●発掘調査に従事した大館市の現場●

土飛山館跡（平安）、二井田館跡（中世・近世）、茂木屋敷跡（江戸）、  
菅谷地遺跡（縄文）、川口十三森遺跡（縄文・奈良）、鎌谷地沢遺跡（縄文）、  
中茂屋遺跡（縄文）、大館城跡（江戸）、真館Ⅲ遺跡（縄文）

# 大館市内の古代遺跡について

嶋影壮憲（大館市教育委員会）

## 1. 大館市の位置と環境

- 1) 大館市の位置（市庁舎北緯 40 度 16 分 18 秒、東経 140 度 33 分 54 秒）
  - 秋田県の北東部、北東北三県のほぼ中心に位置する。
- 2) 大館市の地理的環境
  - 大館市は盆地とその周囲の山地からなり、盆地内の中央を米代川が西流する。米代川とその流域には河岸段丘が発達している。
- 3) 先史時代の歴史的環境
  - 河岸段丘や台地上に縄文時代以降の多くの遺跡が分布している。
    - ・秋田では古墳時代の古墳は未発見。弥生時代末期～古墳時代は続縄文文化圏内に入る。
- 4) 出羽国の成立と出羽柵の北進
  - ・出羽国建置（712）、出羽柵を秋田村へ遷し（733）、出羽柵を秋田城に改称（760 頃）。

## 2. 文献からみた秋田県北部地方

- 1) 「邑良志閑（オシバ）村」と「式薩体（ニサツタイ）村」の対立
  - 『日本後記』弘仁 2 年（811）7 月 29 日条
    - 「邑良志閑村」：秋田県北部に比定する説や陸奥国北部、二戸郡域に推定する説がある。
    - 「式薩体村」：現在の二戸郡を主とし、青森県南部にも及ぶ地域。
- 2) 大館地方の初見「火内」
  - 元慶 2 年（878）3 月に起きた蝦夷（エシ）の蜂起（元慶の乱）『日本三代実録』
    - ・秋田城司の悪政に対し八郎瀉沿岸と米代川流域の住民が武力蜂起し秋田城などを焼き討ち。
    - ・藤原保則と小野春風が対処に当たり、春風は米代川流域の族長たちを説得。9 月に平定。
  - 鹿角（上津野ガノ）や比内（火内ヒイ・大館地方）が秋田城下の村として歴史記録に登場した。

## 3. 奈良時代の遺跡（8 世紀）

- 1) 大館市内では川口十三森遺跡が唯一、竪穴住居跡 1 軒のみ
- 2) 末期古墳の存在可能性

## 4. 平安時代前期の遺跡（8 世紀末～10 世紀初め）

- 9 世紀中頃までの遺跡はなく、元慶の乱頃を境に集落が新たに成立。大きく変化した。
- 密教法具の「伝 松峰神社出土三鈷鏡（サコユヅリ）」は 9 世紀後半頃のもの。仏教文化が波及。
  - ・片貝遺跡から「寺」と読める墨書土器が 7 点出土。
- 915 年（延喜 15）に十和田火山が大噴火。大量の火山灰が東北地方一帯の遺跡から検出。
- 十和田火山噴火により発生した火砕流は泥流となり、米代川流域の村々を飲み込んだ。
  - ・江戸時代後期の紀行家菅江真澄などの記録に埋没家屋に関する記載がある。
  - ・胡桃館遺跡（北秋田市）が著名。建物が建ったまま埋没。官衙や寺院と考えられている。
  - ・大館市内の埋没遺跡は道目木遺跡と片貝家ノ下遺跡の 2 例。片貝家ノ下遺跡は火内村か？
  - ・道目木遺跡からは曲げ物が出土。市内最古の曲げわっぱ。

## 大館市内の古代遺跡について（嶋影壮憲）

- 915年に埋没した片貝家ノ下遺跡は、少なくともその一世代前から居住。9世紀後半に成立。
  - ・ 竪穴建物、掘立柱建物、水田、古墳（墓）？からなる集落（大館の古代史を変える発見）。

### 5. 平安時代中期の遺跡（10世紀初め～11世紀前半）

- 十和田火山噴火後も継続・成立する集落が多数存在し、大館地域における大開発時代が到来。
- 米代川以北では標高60m以上の高台に溝で区画され、製鉄を営む集落が複数発生する。
  - ・ これまで大館市内で発掘調査された古代集落遺跡の大半はこの時期のもの。
  - ・ 釈迦内中台Ⅰ遺跡、大館野遺跡、扇田道下遺跡は竪穴建物が50軒を超える大規模集落。
  - ・ 川砂鉄を利用した小型の竪形炉が釈迦内中台Ⅰ遺跡や大館野遺跡などで発見。
- これらは稲作を生業とする農耕集落と考えられ、漁労も行っていた。
  - ・ 真館跡や大館野遺跡からは炭化した粃、扇田道下遺跡からは炭化米が出土。
  - ・ 大館野遺跡などからヤス、狼穴Ⅲ遺跡から大型の釣針か引掛鉤とみられる漁具が出土。
- 10世紀には五所川原で作られた須恵器、11世紀頃には北海道系の擦文土器がもたらされる。

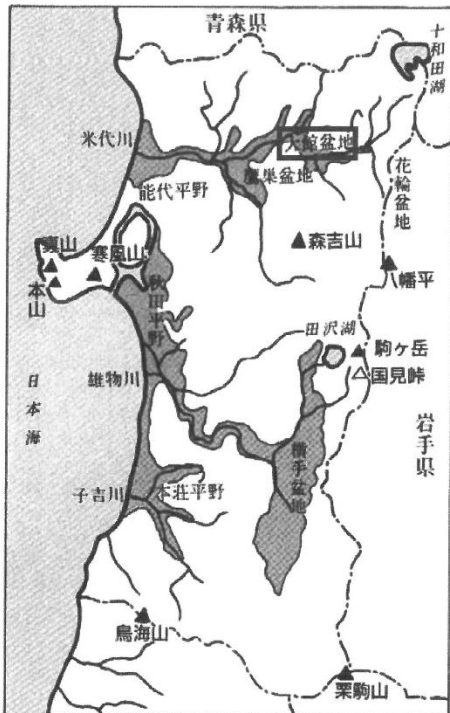
### 6. 「防御性集落」（10世紀後半～11世紀）

- 東北北部（秋田・岩手県北半以北）から道南に分布（律令国家・城柵設置の領域の外）。
- 高地性集落（眺望のよい山上・台地に立地）、環濠集落（堀・土塁で囲む）の特性。
  - ・ 谷地中館跡や土飛山館跡は中世城館だが、平安期の集落も発見されている。

### 7. 古代から中世へ

- 12世紀に入ると「防御性集落」がつくられなくなり、奥州藤原氏の支配が東北一円に及んだ。
  - ・ 古代から中世にかけての遺跡は、大館地方ではほとんど見つかっていない。
- 「防御性集落」の終焉は国家の支配が東北地方北部まで及んだことを示し中世の幕開けを示唆。

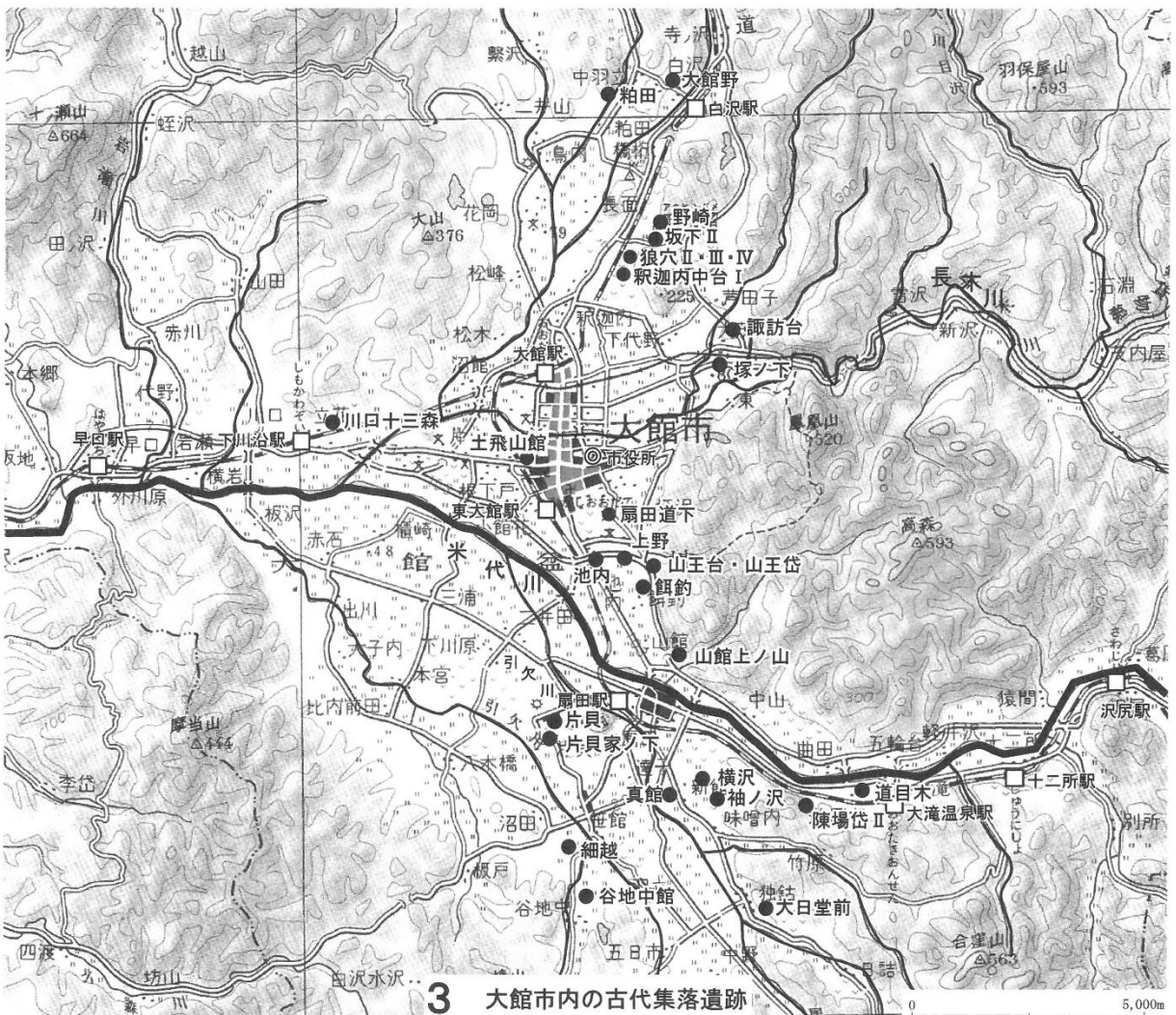
大館市内の古代遺跡について（嶋影壯憲）



1 秋田県地形略図（河出書房新社 図説秋田県の歴史）



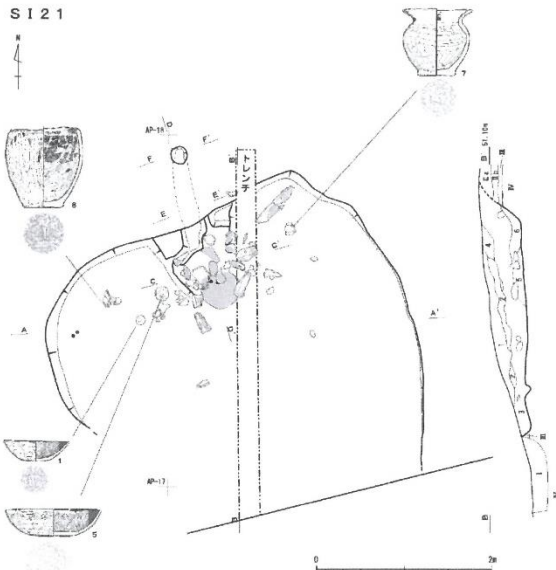
2 元慶の乱関係要図 熊田亮介作図  
焼野以北が賊地12村、添河以南3村が向化の俘地。  
（能代市『能代市史通史編I』）



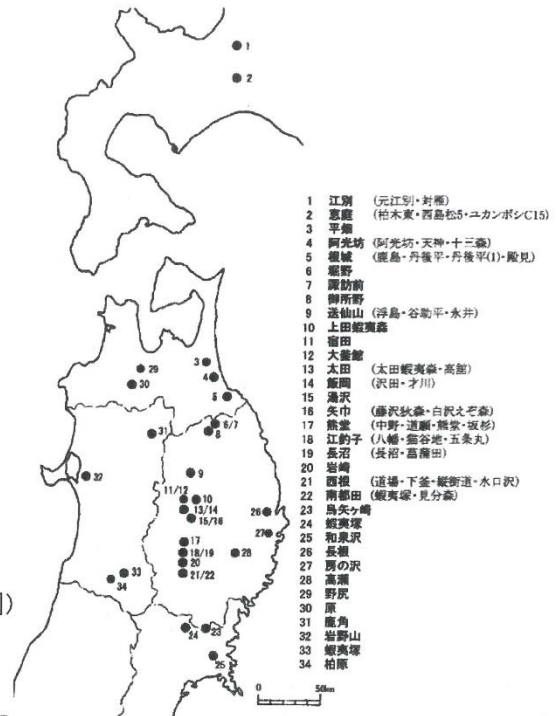
3 大館市内の古代集落遺跡



# 大館市内の古代遺跡について (嶋影壮憲)



1 奈良時代の住居跡 (『川口十三森遺跡発掘調査報告書』)

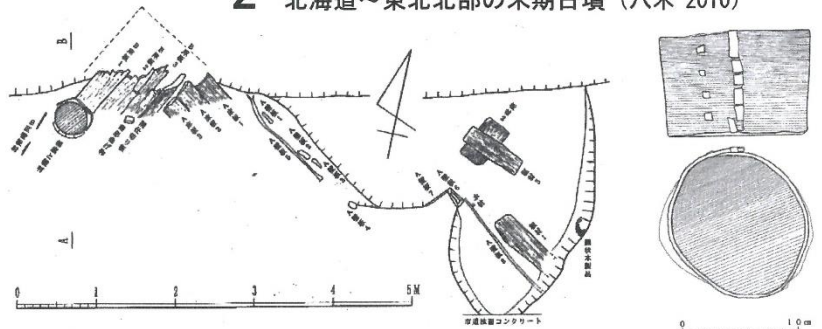


2 北海道～東北部の末期古墳 (八木 2010)

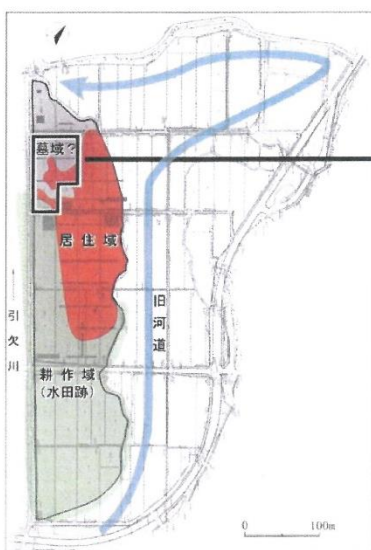


3 伝 松峰神社出土三鈷鏡

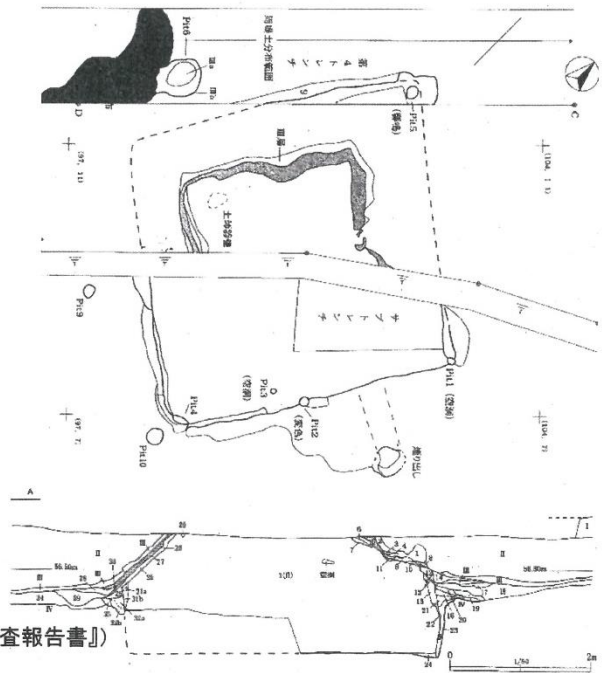
(東京国立博物館蔵) (大館市史 第1巻)

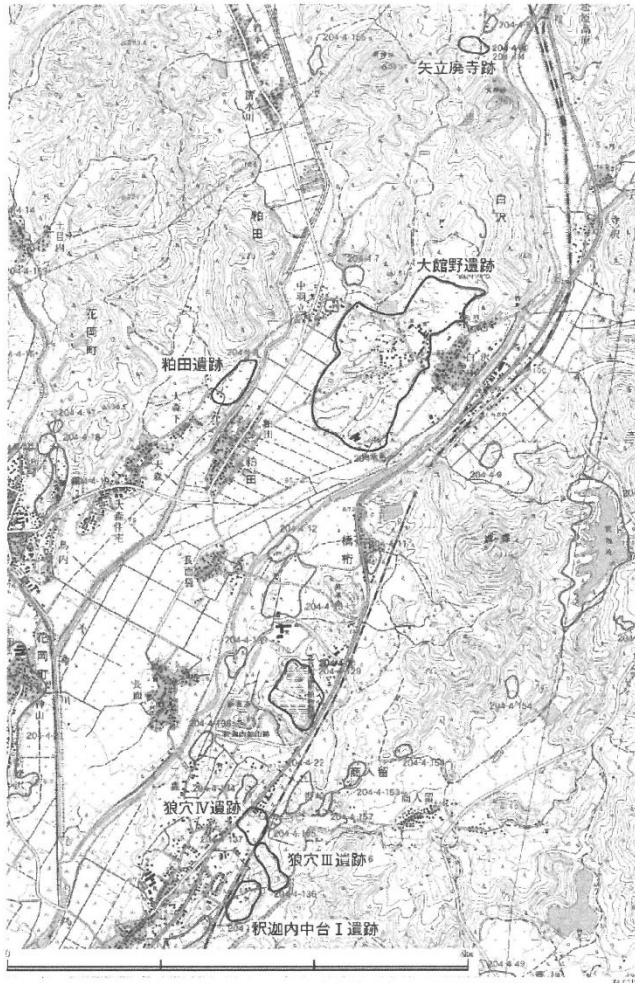


4 道目木遺跡検出家屋及・曲げ物 (板橋 2000)



5 片貝家ノ下遺跡 (秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』)





2

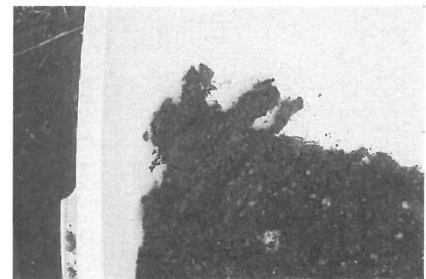


1 大館野遺跡と周辺の古代遺跡

4 大館市内古代集落の年代

地区	遺跡名	総件数	9世紀 前葉	9世紀 中葉	9世紀 後葉	9世紀末 ～10世紀初	10世紀 前葉	10世紀 中葉	10世紀 後葉	11世紀	不明
北 部	粕田遺跡	5					1.5	3.5			
	大館野遺跡	53					16	14.5	6.5		16
	釈迦内中台 I 遺跡	95					40.5	40	12.5		2
	狼穴IV遺跡	10					5.5	4.5			
	狼穴III遺跡	12					7	4			1
	狼穴II遺跡	3					2	1			
	坂下II遺跡	15					7	8			
	野崎遺跡	3					1.5	1.5			
	環訪台遺跡	1					1				
	塚ノ下遺跡	3					1.5	1.5			
中 央 部	土飛山館跡	12							4.5	3.5	4
	扇田道下遺跡	52				15.5	36.5				
	池内遺跡	27				14	13				
	上野遺跡	1									1
	鉦釣館跡(山王台)	6				6					
	鉦釣館跡(山王台)	4				4					
	鉦釣遺跡	8					6	1	1		
南 部	山館上ノ山遺跡	1									1
	陳場岱II遺跡	1						0.5	0.5		
	真館跡	1						1			
	袖ノ沢遺跡	5									5
	横沢遺跡	7				1		3			
	味噌内館下遺跡	1							0.5	0.5	
	大日堂前遺跡	2						1.5	0.5		
	細越遺跡	4					2	2			
谷地中館跡	1							0.5	0.5		
片貝遺跡	18							4			
片貝家ノ下遺跡	2					2				7	

元慶の乱 十和田火山噴火



S17 炭化粳米

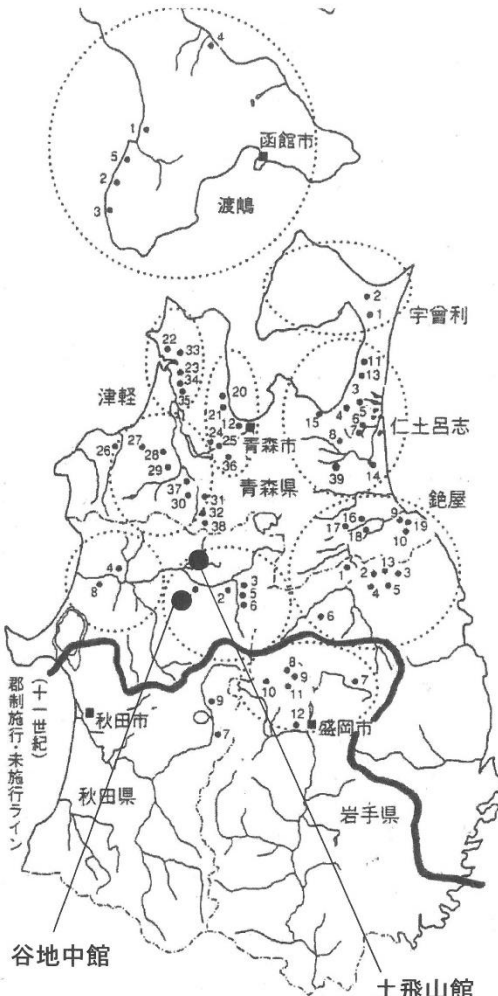


5 炭化粳・米

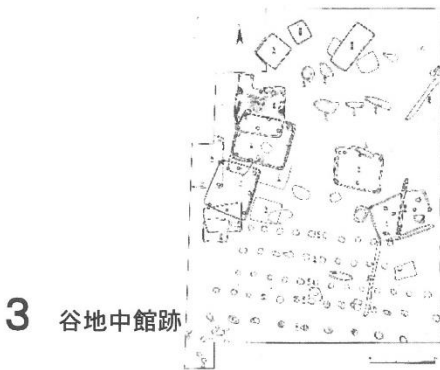
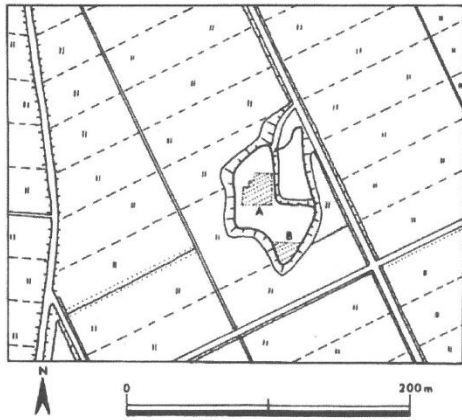
(1・2・5上 大館郷土博物館編 2012)

(3・5下 大館郷土博物館編 2013)

# 大館市内の古代遺跡について（嶋影壮憲）



1 防御性集落の分布



3 谷地中館跡

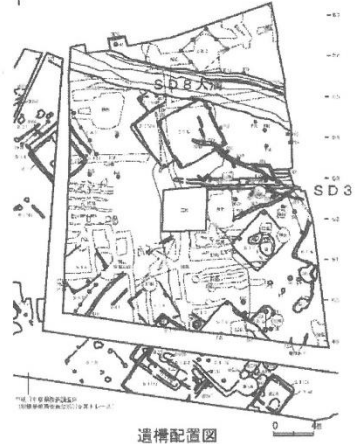
- |             |              |
|-------------|--------------|
| 北海道南地方      | 31: 砂沢平遺跡    |
| 1: 小茂内遺跡    | 32: 古館       |
| 2: 原口遺跡     | 33: 唐川城      |
| 3: 札前遺跡     | 34: 五林館      |
| 4: 尾白内遺跡    | 35: 深野田館     |
| 5: ワシリ遺跡    | 36: 源常平遺跡    |
| 青森県         | 37: 早稲田遺跡    |
| 1: 将木館      | 38: 永野遺跡     |
| 2: 向野2遺跡    | 39: 赤平(3)遺跡  |
| 3: 戸領館      |              |
| 4: 明前館      | 岩手県          |
| 5: 鷹架沼窪穴遺跡  | 1: 駒焼場遺跡     |
|             | 2: 大日向Ⅱ遺跡    |
| 6: 内沼蝦夷館    | 3: 牛転ばし館     |
| 7: 中志蝦夷館    | 4: たてひら館     |
| 8: 内蛇沢蝦夷館   | 5: 民田山館森遺跡   |
| 9: 能野堂遺跡    | 6: コアスカ館     |
| 10: 風張(1)遺跡 | 7: 太布蝦夷森遺跡   |
| 11: 向田(9)遺跡 | 8: 暮坪遺跡      |
| 12: 新田(1)遺跡 | 9: 暮坪ⅡA遺跡    |
| 13: 向田(9)遺跡 | 10: 三ツ森山遺跡   |
| 14: 平畑(2)遺跡 | 11: 子銅沢山遺跡   |
| 15: 二十平遺跡   | 12: ケケ坪Ⅰ・Ⅱ遺跡 |
| 16: 林ノ前遺跡   | 13: 黒山の昔穴遺跡  |
| 17: 上七崎遺跡   | 秋田県          |
| 18: 大仏遺跡    | 1: 横沢遺跡      |
| 19: 権館遺跡    | 2: 太田谷地館     |
| 20: 蓬田大館    | 3: 妻の神Ⅰ遺跡    |
| 21: 蓬田小館    | 4: チャクシ館     |
| 22: 墳(古)館   | 5: 下沢田遺跡     |
| 23: 中里城     | 6: 北の林Ⅰ遺跡    |
| 24: 高館      | 7: 古館遺跡      |
| 25: 高屋敷館    | 8: 鴨巣Ⅰ・Ⅱ遺跡   |
| 26: 種里城     | 9: 長者館遺跡     |
| 27: 大館森山遺跡  |              |
| 28: 小友館     |              |
| 29: 中別所館    |              |
| 30: 石川長者森遺跡 |              |

注) 防御性集落は基本的に郡制未設置地域に分布する。  
郡制施行ラインの内側にある防御性集落は岩手郡の建郡の時期とも関係する。

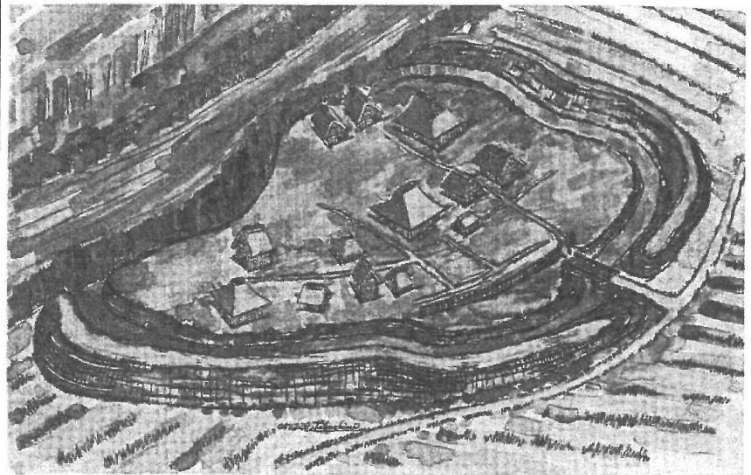
所在地：秋田県大館市豊町

立地：台地（標高58～65m）

時期：10世紀後半～11世紀前半



2 土飛山館跡



11世紀の高屋敷館遺跡推定復原図（高島成情氏画）

(1・4 三浦編 2006)



# 発掘調査報告

# 発掘調査報告

## 令和2年度調査遺跡一覧

遺跡等名	時代	所在地	調査期間	面積	担当
橋場遺跡 第4次	縄文 中世	福岡字橋場地内	4月13日～ 6月13日	172.5 m <sup>2</sup>	佐藤 由浩
史跡九戸城跡	中世 近世	福岡字城ノ内地内	4月20日～ 11月30日	536.5 m <sup>2</sup>	佐藤 由浩
前小路遺跡 第71～77次	縄文 平安	石切所字前小路 ・森合地内	4月13日～ 11月30日	2,226 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
三ノ丸遺跡	中世末 ～近世	福岡字城ノ内地内	4月30日～ 5月19日	68.3 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
上里遺跡群 晴山遺跡 第40・41次	縄文 中世	石切所字晴山地内	6月17日～ 9月29日	983.3 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
館Ⅰ遺跡	縄文	浄法寺町御山館地内	7月6日～ 7月27日	47.3 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
中曾根遺跡	縄文 古代 中世	石切所字中曾根地内	10月7日～ 10月30日	211 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎

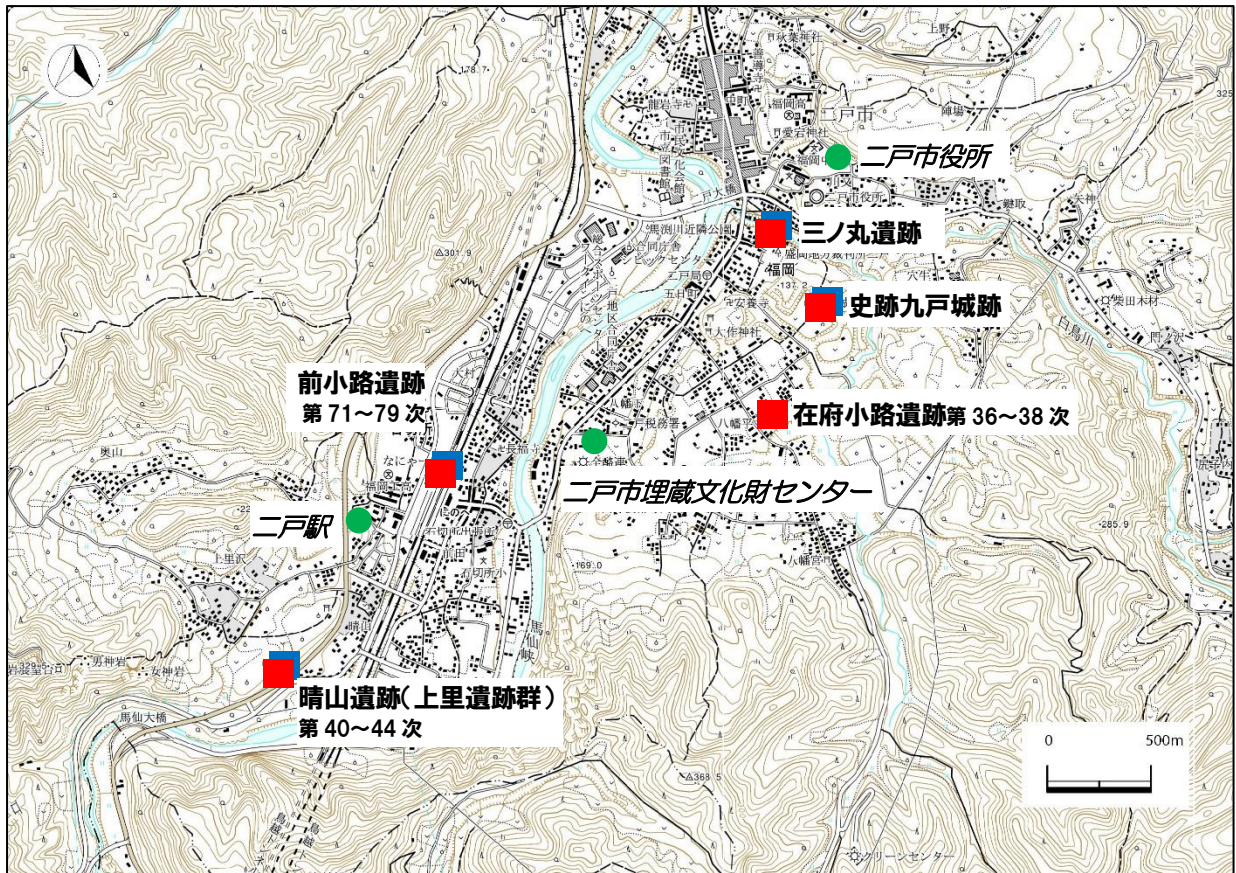
## 令和3年度調査遺跡一覧

遺跡等名	時代	所在地	調査期間	面積	担当
三ノ丸遺跡	中世末 ～近世	福岡字城ノ外地内	4月14日～ 5月10日	100 m <sup>2</sup>	佐藤 由浩
在府小路遺跡 第36～38次	縄文 近世	福岡字在府小路地内	4月19日～ 6月3日 7月1日～ 8月5日	609.3 m <sup>2</sup>	佐藤 由浩
上里遺跡群 晴山遺跡 第42～44次	縄文 中世	石切所字晴山地内	4月26日～ 7月29日 10月19日～ 11月19日	1,718 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
史跡九戸城跡	中世 近世	福岡字城ノ内地内	6月7日～ 11月30日	1,225 m <sup>2</sup>	佐藤 由浩
駒焼場遺跡	平安	金田一字駒焼場地内	6月30日～ 8月17日	285.1 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
前小路遺跡 第78・79次	縄文 平安	石切所字前小路 ・森合地内	7月28日～ 10月20日 9月13日～ 11月16日	990.2 m <sup>2</sup> 268.5 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
堀野遺跡群 長瀬遺跡第2次	縄文 古墳 古代	堀野字長瀬地内	8月30日～ 9月13日	69.5 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎
下川又遺跡	奈良	福岡字川又地内	11月19日～ 12月9日	55.4 m <sup>2</sup>	鈴木裕一郎

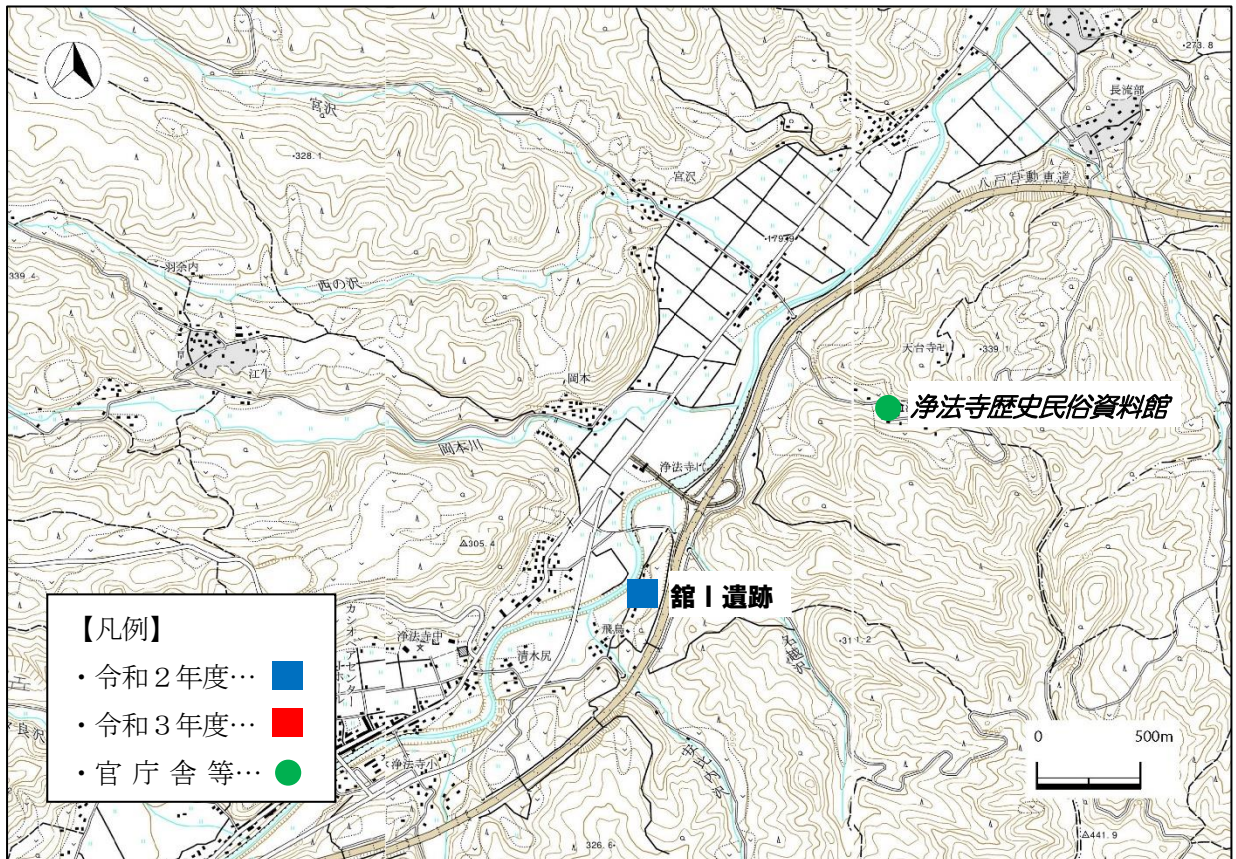


令和2、3年度調査遺跡等所在地図

(福岡・石切所地区)

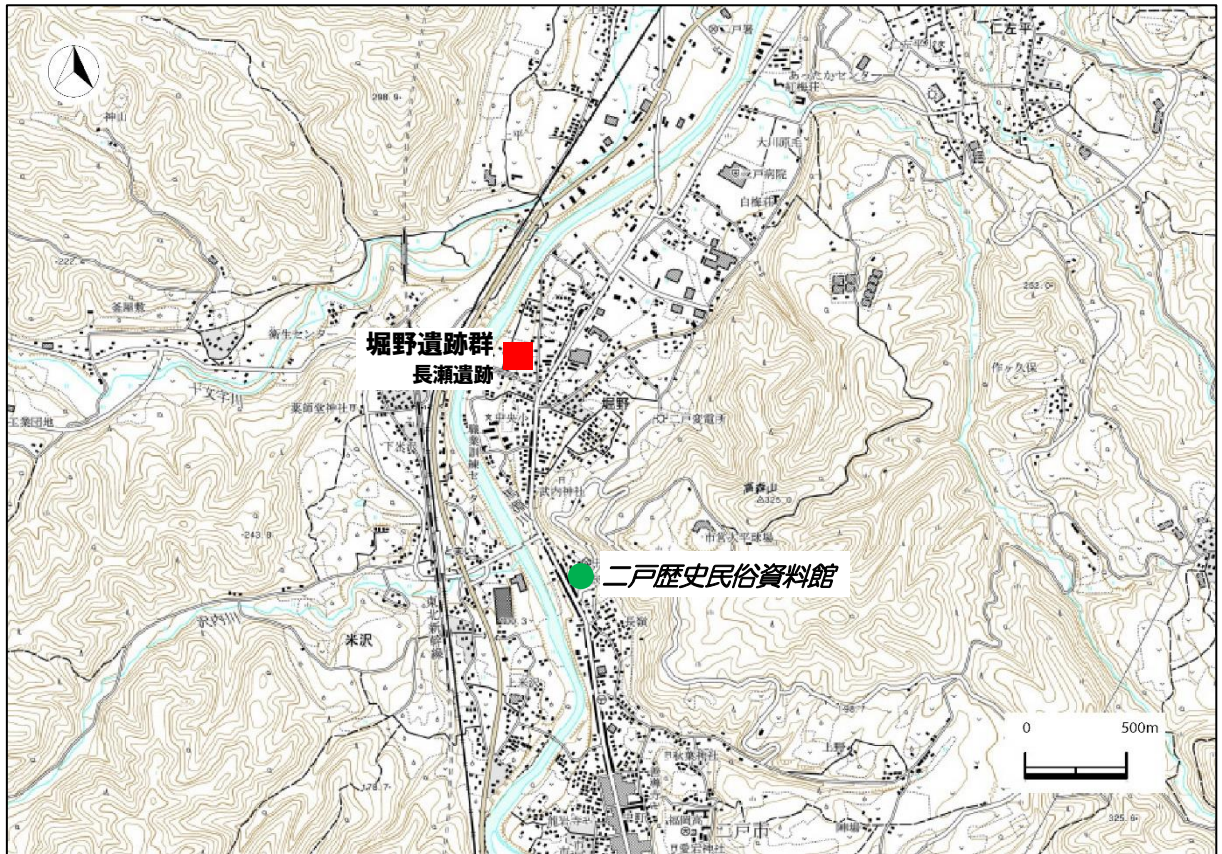


(浄法寺地区)





(堀野地区)



(金田一地区)





## 令和3年度発掘調査の概要

### 1. 令和3年度の発掘調査について

- 史跡九戸城跡の内容確認調査 1件
- 個人住宅建設に伴う調査 4件
- 民間開発に伴う調査 3件
- 区画整理事業に伴う調査 2件

### 2. 令和3年度の埋蔵文化財に関する届出（令和4年3月1日現在）

- 照会 184件 → 遺跡（又は史跡）に該当 71件
  - 発掘届 35件
  - 試掘調査 24件 → 埋蔵文化財（遺構・遺物）検出 4件
- 【協議の結果】発掘調査3件、調査不要1件

### 3. 届出から調査に至るまで（令和3年度の事例から）

#### ○堀野遺跡群（長瀬遺跡）

- (1) 個人住宅建設に伴う照会 → 遺跡該当の回答
  - (2) 発掘届・試掘調査 → 試掘で埋蔵文化財検出
  - (3) 協議 → 発掘調査
- (協議内容)

住宅の基礎の位置や地盤改良の工法変更等、遺構を破壊せずに済むか話し合いをしましたが、やむを得ず破壊を免れないとの結論となったため、建主と施工業者から了承を得た上で発掘調査を実施しました。



遺構が検出されたトレンチ



炉跡検出の様子

○上里遺跡群（大坊平遺跡）

- (1) 個人住宅建設に伴う照会 → 遺跡該当の回答
- (2) 発掘届・試掘調査 → 試掘で埋蔵文化財検出
- (3) 協議 → 発掘調査不要と判断  
(協議内容)

地盤改良のパイルを打つ箇所を確認したところ、設計図面で遺構（住居跡）の破壊が最小限に抑えられることを確認したため、発掘調査は不要と判断されました。



遺構が検出されたトレンチ



竪穴住居跡の検出の様子

#### 4. 埋蔵文化財の保護について

開発対象地が遺跡に該当する場合、文化財保護法第93条の規定により工事着手の60日前までに発掘届（埋蔵文化財発掘の届出）を提出する必要があります。その上で、教育委員会から事業者へ開発前に試掘調査実施の協力を基本的に求めることになります。

対象地で埋蔵文化財が確認された場合は、事業者に対し保護措置を講じるよう要請します。保護措置の方法として、①現状保存、②盛土造成等の設計変更、③発掘調査等による記録保存が挙げられます。発掘調査になる場合は事業者との協議・調整が重要となります。

また、発掘調査となった際の費用について、個人住宅建設の場合は補助がありますが、営利企業等の開発である場合は負担していただく場合があります。保護措置の方法や調査時期、負担額については、調査面積や検出される埋蔵文化財の規模で変わるため、その都度協議します。

埋蔵文化財を後世まで伝えられるように、文化財課はその保護に努めています。

## 前小路遺跡（第78・79次）

所在地	二戸市石切所字前小路・森合地内
調査原因	土地区画整理事業
調査期間	令和3年7月28日～10月20日（第78次） 9月13日～11月16日（第79次）
調査面積	第78次：990.2㎡、第79次：268.5㎡
主な時代	奈良時代～平安時代（8世紀初頭、10世紀初頭～後葉）、中近世
主な遺構	竪穴住居跡、土坑
主な遺物	土師器、石製品、鉄製品、縄文土器

### ①遺跡の説明

前小路遺跡はJR二戸駅の北東側に広がる遺跡です。平成13年度以降、区画整理事業に伴い発掘調査が進められ、200棟近い竪穴住居跡や集落を囲む堀跡が確認されており、主に9世紀末～10世紀初頭の集落跡と考えられています。また遺物として土師器・須恵器・金属製品が出土しており、その中には久慈産と思われる琥珀製品や塩作りで使用された製塩土器もあり、沿岸との交易も想定されます。

近年、縄文時代の遺構や、奈良時代の竪穴住居跡、中近世の竪穴遺構も出土していることから、長期間にわたり集落として使用されていたと考えられます。

### ②調査の内容と結果

#### ○第78次調査

前小路遺跡の南側に位置しています。検出時に検出面の土が不均一だったため、西側の斜面からの土砂崩れが想定されました。重機で表土を掘削し、人力によって精査を行いました。また、通常よりも焼土や遺物の出土状況に注意を払い進めました。

調査の結果、竪穴住居跡が7棟、竪穴遺構が3棟を確認しました。8号竪穴住居跡は8.7m×7.2m以上で、西壁にカマドが作りつけられていました。床面は粘土を貼り、出土した遺物の特徴から8世紀初頭の住居跡と考えられます。



第78次調査区全景（北から）



第79次調査区全景（東から）



10号堅穴住居跡は土砂崩れの崩落土の下から確認されました。大きさは9.6m×8.8mと大型で、壁は80cm残存していました。カマドは西壁に作りつけられていて、近接した箇所からは鍛冶場遺構と思われる跡が確認されました。併せて鋤先などの鉄製品が出土していることから、通常の住居ではなく工房跡と考えられます。時期は遺物の特徴から前小路遺跡の中心時期である9世紀末～10世紀初頭と考えられます。なお、土砂崩れ以後、10世紀中葉～後葉の堅穴住居跡が作られていることから、長い間居住したともいえます。

遺物は土師器・須恵器・鉄製品・石製品・縄文土器などが出土しました。

#### ○第79次調査

前小路遺跡のほぼ中央部に位置しています。重機で表土を掘削し、精査をしたとこと、上層の土が削平を受けており、遺構の残存状況はよくありませんでした。

調査の結果、9世紀末～10世紀初頭と考えられる堅穴住居跡が3棟、中世以降の堅穴遺構が1棟確認しました。堅穴住居跡のうち、13号堅穴住居跡は7.5m×6.4mであり、床面前面に焼土を確認しました。カマドは西壁に作りつけられており、煙道(カマドの煙突部分)は凝灰岩で囲まれていました。北側にはそれ以前のカマドを確認しました。

遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石製品、鉄製品、銭貨が出土しました。



10号堅穴住居跡全景(北東から)



10号堅穴住居跡鍛冶場遺構



10号堅穴住居跡鋤先出土状況



10号堅穴住居跡の柱穴の位置(東から)

こまやきば  
駒焼場遺跡

所在地	二戸市金田一字駒焼場地内
調査原因	宅地分譲・上下水道引き込みに伴う造成工事
調査期間	令和3年6月30日～8月17日
調査面積	285.1 m <sup>2</sup>
主な時代	平安時代（10世紀初頭～中葉）
主な遺構	竪穴住居跡、土坑
主な遺物	土師器（甕・鍋・坏）石製品、鉄製品、縄文土器

### ①遺跡の説明

駒焼場遺跡は、I G R金田一温泉駅の東側に広がる遺跡で、北東側に馬淵川が北流しており、西側斜面から続く丘陵の先端に位置しています。当遺跡は、昭和56年～昭和62年にかけての国道4号バイパスと駅への取付道路である市道建設に伴い発掘調査が行われ、9世紀末～10世紀の竪穴住居跡が多く確認されました。またその住居を囲むように10世紀後半～11世紀にかけての大溝跡が確認され、防御的な環濠集落であることが分かりました。平成25年度には下水道布設工事に伴い発掘調査が行われ、ほぼ同時期の竪穴住居跡が確認されています。

### ②調査の内容と結果

過年度の発掘調査区に隣接していることから、住居跡が確認されることを想定しました。そのため、工事に先立ち重機によって試掘調査を行った結果、敷地全体に竪穴住居跡が確認されました。事業者と協議したところ、今年度工事を行う取付道路部分を発掘調査対象地とすることになりました。表土を重機で掘削し、確認された遺構周辺を精査したのち、人力によって発掘調査を進めました。



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



今回の調査では竪穴住居跡4棟、土坑3基を確認しました。竪穴住居跡は調査区全体に等間隔で分布しました。1号竪穴住居跡（SI01）は今回確認された住居の中で一番大きく、5m×4.7mの方形で、床面の中央部分は貼床で硬質でした。カマドは南東壁に造り付けられており、南コーナーに寄っていました。袖部分は凝灰岩を立て、粘土で固められ、中央部分が赤く焼けていました。なお、カマドでは土師器の鍋がほぼ完形で出土しました。2号竪穴住居跡もカマドの方位が1号竪穴住居跡と同じで、方形の土坑が重複していました。3号住居跡は1・2号竪穴住居跡と違い、カマドが西側で、壁の中央部に造り付けられていました。4号竪穴住居跡は下水道の布設部分で一部のみ確認されました。規模は不明でしたが床面近くに炭化物が多く見つかったことから、廃絶時に焼失した焼失住居と考えられます。

遺物は、土師器・鉄製品・縄文土器がテンバコ3箱出土しましたが、遺物の出土量が比較的小さいため、木器等の有機質の利用が想定されます。

以上のことから、出土遺物の特徴や今までの調査事例と比較すると、これまでの調査とほぼ同様の10世紀初頭～中葉の集落であることが考えられ、竪穴住居跡の密度があまり高くなく、遺構の重複も少ないことから限られた時期に集落が形成されたと思われます。



2号竪穴住居跡完掘（西から）



2号竪穴住居跡カマド遺物出土状況（西から）



3号竪穴住居跡完掘（西から）



調査の様子

## 史跡九戸城跡

所在地	岩手県二戸市福岡字城ノ内地内
調査原因	史跡整備に伴う内容確認調査
調査期間	令和3年6月7日～11月30日
調査面積	1,224.690 m <sup>2</sup>
主な時代	中近世
主な遺構	通路状遺構、溝跡、竪穴遺構、竪穴住居跡（縄文）
主な遺物	陶磁器、金属製品（小札、釘等）、銭貨、縄文土器、石器

### ①遺跡の説明

史跡九戸城跡は、九戸氏時代の九戸城と南部氏時代の福岡城に分けられます。現在、目にしている九戸城跡は、九戸城落城後に上方軍によって、北東北で最初の石垣をもつ織豊系城郭として整備され、南部氏が盛岡城に移る寛永13年（1636）まで居城した福岡城の姿です。史跡九戸城跡は、環境整備事業の一環として平成元年より発掘調査を実施し、これまで本丸、二の丸東側上下段平場、二の丸大手、二の丸搦手が調査され、本丸内の建物配置、二の丸大手虎口の様子や二の丸大手土橋石垣の存在などが明らかとなりました。

### ②調査の内容と結果

令和3年度の発掘調査は、近世絵図を参考に曲輪南西部に調査区を設定し、通路位置と門、柵、塀など通路に関する付属施設の確認を目的として調査を実施しました。

人力による表土除去後、遺構検出作業、精査によって発掘調査を進めたところ、通路状遺構1基、溝跡3条、竪穴遺構3棟、竪穴住居跡3棟が確認されました。



調査区全景（西から）



重複している溝跡（左：SD10、右：SD9）



通路状遺構（北から）



竪穴遺構（SI45、SI48）



調査区南側中央付近で幅約2m、長さ10mの範囲で黒褐色土が帯状に検出され通路状遺構と判断しました。通路状遺構は、幅約2m、長さ10m以上、周囲より約15cm程度低く、南に向かって緩やかに下がっていることが確認されました。堀からの接続部分は、後世の削平を受けているため不明です。

調査区北側で東端から西端まで延びる溝跡が3条確認され、北からSD9、SD10、SD11としました。SD9は、長さ60m以上、上端幅3m、深さ約1m、下端幅1m、SD10、SD11は、幅50~70cm、深さ30~40cmあります。SD9は他の2条と比べ、幅が広く、深さがあり、曲輪の調査区西端から東端まで延びている状況から曲輪内を仕切る目的で築かれた溝であると推定されます。

調査区西側で1棟、東側で2棟の建物と推定される遺構が検出されました。いずれも方形の形状をしており、カマドの痕跡や土師器片が出土していない点、堀を挟んだ二の丸東側上下段平場で確認されている竪穴遺構と規模、軸方向が一致することから中世の竪穴遺構と推定されます。

城郭期の遺物として青磁、白磁、染付皿といった中国からの貿易陶磁器、大窯3期の天目茶碗、茶臼、銭貨、鎧の部品である小札などが出土しています。

溝や通路状遺構に伴う遺物は確認されていませんが、検出時に出土している遺物から九戸城期の遺構の可能性が想定されます。

また、城郭期以外の遺構として、調査区南東隅で縄文時代の竪穴住居3棟が検出されました。そのうち1棟は、石囲炉と埋設土器が確認されたましたが、後世の削平により、住居の壁が不明瞭です。出土している縄文土器から縄文時代中期の住居と考えられます。



# 調査成果(資料報告)

## 令和2年度

橋場遺跡(第4次)、中曾根遺跡、館 I 遺跡、史跡九戸城跡

## 令和3年度

堀野遺跡群長瀬遺跡(第2次)、上里遺跡群晴山遺跡(第42～44次)、

下川又遺跡、三ノ丸遺跡、在府小路遺跡(第36次～第38次)

## 橋場遺跡（第4次調査）

所在地	岩手県二戸市福岡字橋場 30 - 1
調査原因	個人住宅新築工事
調査期間	令和2年4月13日～令和2年6月18日
調査面積	172.544 m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代（晩期）、中世
主な遺構	散布地、城館跡
主な遺物	縄文土器、石器、土偶、陶磁器

### ① 遺跡の説明

橋場遺跡は史跡九戸城跡の南西側、馬淵川に開析された標高 100mの低位河岸段丘（米沢段丘）上に立地しています。橋場という地名は藩政期に帰府坂と五日町との間に橋が架かっていたことが地名の由来とされています。

過年度、西側隣接地の発掘調査を実施した際、縄文時代晩期の遺物包含層と、古代の竪穴住居跡が確認されています。

### ② 調査の内容・結果

今回の発掘調査は、試掘調査を行った際に、多量の縄文土器が確認されたことから発掘調査を行うことになりました。住宅の基礎部分の掘削によって元の土が削平される恐れのある箇所の調査を行いました。表土を重機によって表土剥ぎを行った後、人力によって遺構検出を行いました。

調査の結果、旧地形が東から西に向かって低くなっており、表土下層が黒色土の遺物包含層で大量の遺物が出土しました。

出土遺物は、縄文時代晩期前半の遺物が中心です。西側傾斜地部分で多く確認され、土器片の大きさも 15 cm以上のものが目立ちます。西側に行くに従い、遺物の出土割合が少なくなり、土器片も小さくなります。このことから、東側上段からの流れ込みと推定されます。

遺物は、縄文土器、石器、土偶などが出土しています。



調査区全景（南から）



遺物出土状況（北から）

## 中曽根遺跡

所在地	二戸市石切所字中曽根地内
調査原因	上下水道整備・道路造成工事
調査期間	令和2年10月7日～10月30日
調査面積	211 m <sup>2</sup>
主な時代	古代（奈良時代）
主な遺構	竪穴住居跡・円形周溝
主な遺物	土師器・土製品（紡錘車・勾玉）・石製品

### ① 遺跡の説明

中曽根遺跡は二戸市立図書館から合同庁舎の西側に広がる遺跡です。昭和53～55年度に行われた国道4号線中曽根交差点建設に伴う発掘調査の際に、縄文時代と奈良時代の大集落であったことがわかりました。

### ② 調査の内容・結果

今回の発掘調査は、試掘調査を行った際に、竪穴住居跡と埋土と思われる白色火山灰と土師器が見つかったことから、発掘調査を行いました。

その結果、奈良時代の竪穴住居跡2棟、円形周溝1基を確認しました。1号竪穴住居跡は3m四方の小型の竪穴住居跡で、カマドが西壁に作りつけられていました。2号竪穴住居跡は調査区の西端に位置し、半分ほどを発掘しました。埋土内には完形の土師器甕とともに、多くの遺物が出土しました。また床面近くには焼土・炭化物も併せて出土したため、焼失住居と思われます。円形周溝は楕円形に溝で囲み、中央部には穴がありました。

遺物は、土師器・土製品・石製品が出土しています。



調査区全景



竪穴住居跡



検出状況



遺物出土状況



## 館 I 遺跡

所在地	二戸市浄法寺町御山館地内
調査原因	個人住宅建設工事
調査期間	令和2年7月6日～7月27日
調査面積	47.3 m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代・中近世
主な遺構	竪穴遺構、落とし穴
主な遺物	縄文土器・石器

### ①遺跡の説明

館 I 遺跡は浄法寺総合支所から東へ1 kmに位置しており、八戸自動車道が隣接しています。縄文時代の遺跡として登録されていますが、隣接した館 II 遺跡の発掘調査で城館跡であることがわかっており、周囲には吉田館、不動館があることから、中世以降の城館跡に関係する遺跡と考えられます。

### ②調査の内容・結果

今回の発掘調査は、試掘調査を行った際に、竪穴遺構と思われる掘り込みが確認されたことから、発掘調査を行いました。

その結果、中世以降の竪穴遺構3棟、縄文時代の落とし穴が2基確認されました。1号竪穴遺構は壁がまっすぐに立ち上がり、床面が平らで多くの柱穴が確認されました。また2棟の竪穴遺構が重複していると考えられます。2号竪穴遺構は掘り込んだ後、土を敷き詰めて床面としていることがわかりました。なお、竪穴遺構には縄文時代の落とし穴が重複していました。落とし穴は細い溝状になっており、そこには逆茂木さかもぎと呼ばれる、獲物が落とし穴に落ちた時に刺さる杭の柱穴も確認されました。以上のことから、縄文時代は狩場として、中世以降は城館に関する竪穴遺構があったことが想定されます。

遺物は、縄文土器が出土していますが、竪穴遺構の時期を特定できる遺物は出土しませんでした。



調査区全景(東から)



落とし穴 (Tピット)

## 史跡九戸城跡（令和2年度）

所在地	二戸市福岡字城ノ内地内
調査原因	史跡整備に係る内容確認調査
調査期間	令和2年4月20日～11月30日
調査面積	536.524 m <sup>2</sup> (本丸 344.427 m <sup>2</sup> 二ノ丸 192.097 m <sup>2</sup> )
主な時代	中近世
主な遺構	石垣、土塁、礎石、塀跡
主な遺物	陶磁器、銭貨、金属製品

### ①遺跡の説明

史跡九戸城跡は、九戸氏時代の九戸城と南部氏時代の福岡城に分けられます。現在、目にしている九戸城跡は、九戸城落城後に上方軍によって、北東北で最初の石垣をもつ織豊系城郭として整備され、南部氏が盛岡城に移る寛永13年（1636）まで居城した福岡城の姿です。史跡九戸城跡は、環境整備事業の一環として平成元年より発掘調査を実施し、これまで本丸、二の丸東側上下段平場、二の丸大手、二の丸搦手を調査しています。

### ②調査の内容・結果

今回の発掘調査は、本丸整備工事に先立ち段差境の位置を確定するため、追手門裏手平場西側、南土塁北側の2カ所、二の丸大手と在府小路を繋ぐ土橋の年代確定と構造の解明を目的として土橋を調査しました。

本丸追手門裏手平場西側調査区では上下段平場の段差裾から、根石と思われる集石2カ所と礎石5基が並んで確認されました。根石の中心間は約2.4mあり、集石の範囲から直径1m前後の礎石が使われていたと推定されます。礎石と根石を伴う礎石には高低差があることから礎石と根石には時期差があると考えられます。

今回確認された根石と対応する礎石がこれまでの調査で確認されていない点、段差裾という位置、根石周辺が周囲の上段平場に対して低くなる点から上段平場へ出入するための門の礎石に伴うものと推定されます。

本丸南土塁北側調査区では、過年度の調査で確認されていた礎石(SX3)の周辺から柱穴6基が検出されました。柱穴は礎石の西側と南側で確認され2m間隔でL字に並び、周囲に他の柱穴が確認されないことから塀などの遮蔽物に伴う柱穴と推定されます。



本丸追手門裏手平場礎石（東から）



本丸南土塁北側調査区 塀跡（南から）

土橋は、二の丸と在府小路を画す堀を埋め立てて構築されており、南側の在府小路には旧地形が残存していることが判明しました。断面観察からは版築状に埋め立てられていたことが確認されました。

土橋の全長は約25m、通路の幅は約5mになります。土橋の東側からは石垣が確認されました。西側からも石垣に伴う栗石<sup>ぐりいし</sup>が検出されたことから、両面に石垣が築かれていたと推定されます。西側の栗石は地表面まで残存しており、土橋の天端まで石垣が築かれていたと推定されます。確認された石垣の全長は8.72m以上、残存している高さは1.23m以上です。勾配は約53度で、3～4個程度の築石<sup>つまいし</sup>が残っています。自然石をそのまま用いた野面積みと呼ばれる積み方で、横目地が通りません。用いられている石は、安山岩を主体とし、凝灰岩が混じり、大きさが不揃いです。

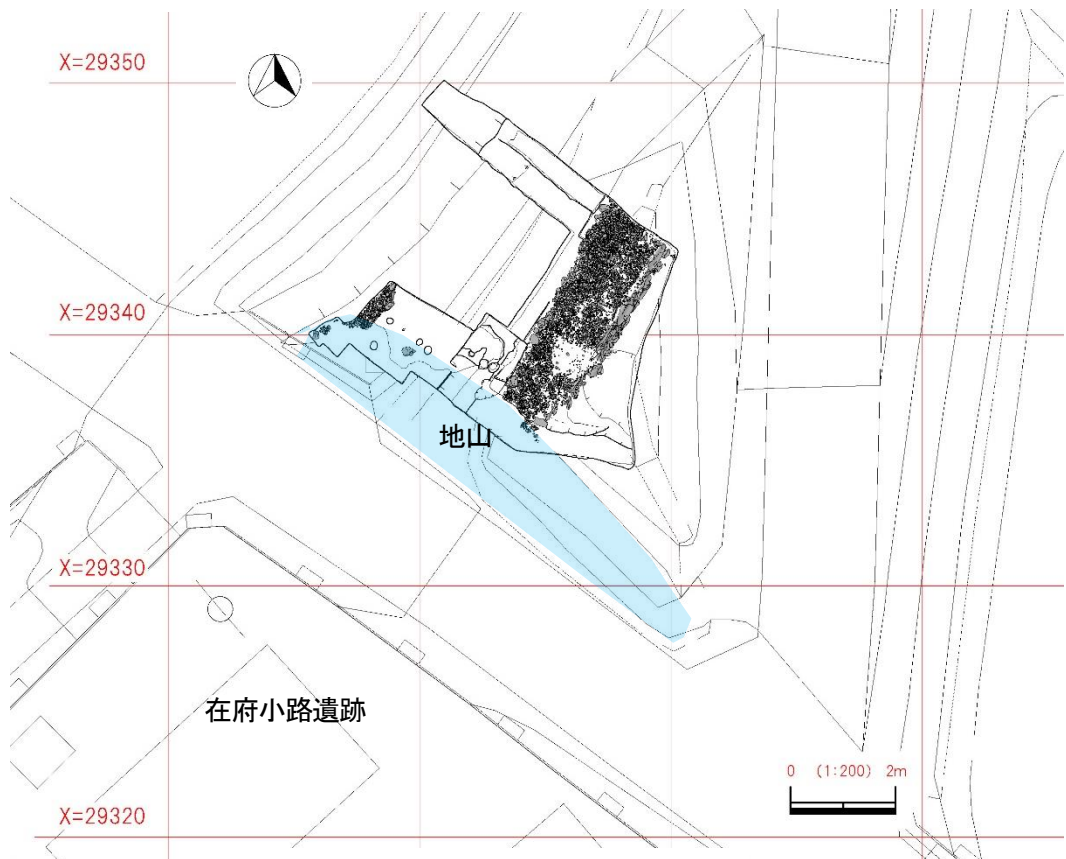
調査で確認された本丸追手門裏手平場の礎石、上段平場の堀跡、土橋石垣はいずれも福岡城期の遺構です。



二ノ丸大手土橋石垣(南東から)



二ノ丸大手土橋石垣(東から)



二ノ丸大手土橋調査区



## 堀野遺跡群長瀬遺跡（第2次調査）

所在地	二戸市堀野字長瀬地内
調査原因	個人住宅新築工事
調査期間	令和3年8月30日～9月13日
調査面積	69.5 m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代(中期末～後期初頭)
主な遺構	竪穴住居跡
主な遺物	縄文土器・石器

### ①遺跡の説明

堀野遺跡群は堀野地区の大部分に位置する遺跡群で、堀野近隣公園周辺の発掘調査では、縄文時代後期の環状列石や竪穴住居跡とともに、末期古墳が確認され、末期古墳からは蕨手刀が出土しています。

令和元年度に行われた長瀬遺跡第1次調査では、縄文時代後期初頭の竪穴住居跡7棟とともに、当該時期の縄文土器が多く出土しています。

### ②調査の内容・結果

今回の発掘調査は、試掘調査を行った際に、炉跡が確認されたことから発掘調査を行うこととなりました。試掘調査の成果と住宅の基礎部分の掘削によって削平される恐れのある箇所を表土を重機によって剥いだ後、人力によって遺構検出を行いました。

その結果、縄文時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡1棟が確認されました。規模は直径約4mの隅丸方形（方形の隅が丸い平面形）で、柱穴は7個を確認しました。中央部には石で囲まれ赤く焼けた炉（石囲炉）が検出されました。石囲炉は掘りくぼめられており、炉で使用された深鉢が横倒しになっていた。

遺物は、縄文土器、石器が出土しています。



竪穴住居跡(南から)



炉跡

## 上里遺跡群晴山遺跡（第42～44次調査）

所在地	二戸市石切所字晴山地内
調査原因	土地区画整理事業
調査期間	令和3年4月26日～6月9日（第42次）、6月10日～7月29日（第43次） 10月19日～11月19日（第44次）
調査面積	第42次：398.7㎡、第43次：496.7㎡、第44次：822.1㎡
主な時代	縄文時代
主な遺構	自然流路、溝跡
主な遺物	縄文土器、土製品、石器

### ①遺跡の説明

晴山遺跡は上里遺跡群の一部で、市内を北流する馬淵川が大きく蛇行する地点の北岸、西側には名勝馬仙峡の男神岩、女神岩を望む河岸段丘上に位置しています。これまでの調査では、縄文時代から古代、中近世まで幅広く出土しており、最も古いものは縄文時代中期末の複式炉を伴う竪穴式住居跡で、床面からは石皿が出土しています。また、新しいものでは13世紀の青磁が出土した堀が確認されています。しかし、どの時代の建物も大きな集落を形成するほどの数は確認されておらず、細々と長い期間この地に暮らしていた様子が窺えます。

### ②調査の内容・結果

晴山遺跡の調査は、区画整理に先立って発掘調査を行い記録・保存します。最初に、重機による表土剥ぎをおこなった後、人力により遺構検出を行います。

今年度の調査では、自然流路1条、溝跡1条を確認しました。自然流路は元々流れていた小川が自然に埋まったと考えられ、埋土の中には多量の縄文土器が含まれていました。縄文土器は中期が中心で、西側の上里遺跡から流れ込んできたと考えられます。



調査区全景（第43次）



縄文土器出土状況

## 下川又遺跡

所在地	二戸市福岡字川又地内
調査原因	建売住宅新築工事
調査期間	令和3年11月19日～12月9日
調査面積	55.4 m <sup>2</sup>
主な時代	奈良時代
主な遺構	竪穴住居跡・竪穴遺構
主な遺物	土師器・土製品・石製品・炭化物

### ①遺跡の説明

下川又遺跡は二戸市役所の東側に位置する遺跡です。平成23年度の中学校建設工事の際に奈良時代の竪穴住居跡が確認され、新規に遺跡登録されました。周辺には中村遺跡が所在し、同時期の竪穴住居跡が確認されています。

### ②調査の内容・結果

今回の発掘調査は、試掘調査を行った際に、埋土の白色火山灰と土師器片が出土したため、発掘調査を行うことになりました。

その結果、奈良時代の竪穴住居跡1棟、竪穴遺構1棟が検出されました。規模は直径約5mの方形で、柱穴は7個を確認しました。西壁にはカマドが作りつけられており、白色粘土と凝灰岩を用いて残存状況は良好でした。床面はカマド周辺が硬質の貼床で、住居の部材と使用された木材と思われる炭化物が出土しました。竪穴遺構はカマドがないことから住居ではなく、別の用途で使用されたと思われます。

遺物は、土師器・土製品・鉄製品・石器が出土しています。



調査区全景



竪穴住居跡



## 三ノ丸遺跡

所在地	令和2年度：二戸市福岡字城ノ内地内 令和3年度：二戸市福岡字城ノ外地内
調査原因	個人住宅新築工事
調査期間	令和2年4月30日～令和2年5月19日 令和3年4月14日～令和3年5月10日
調査面積	令和2年度：68.3 m <sup>2</sup> 令和3年度：100.00 m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代（中期）、中世～近世
主な遺構	散布地、城館跡
主な遺物	縄文土器、陶磁器

### ③ 遺跡の説明

三ノ丸遺跡は二戸市福岡字城ノ外・城ノ内・五日町地内に所在し、史跡九戸城跡の郭の一つとされています。

平成18年度に実施した介護施設新築工事に伴う調査では竪穴遺構1棟、掘立柱建物7棟、井戸跡4基が検出されています。また、史跡九戸城跡ガイドハウス建築に伴う調査では三ノ丸の東側で土塁が調査されています。

### ④ 調査の内容・結果

令和2年度の対象地は、三ノ丸遺跡の東端に位置しています。

調査の結果、縄文時代中期を中心とした縄文土器片と陶磁器片が出土しており、どれも流れ込み、または耕作痕跡から出土しました。なお、城郭期に伴う遺構は確認されませんでした。

令和3年度の調査区は、平成18年度の調査区から南西約80mの地点であることから城郭期の遺構の検出が想定されました。

調査の結果、現代の住宅の基礎が確認され、住宅解体の際の瓦や近代の陶磁器が確認されました。さらに掘り下げると東と南側から水が湧き出る状況であり、遺構は確認されませんでした。



令和2年度調査区全景(南東から)



令和3年度調査区全景(南から)

## 在府小路遺跡（第36次～第38次）

所在地	二戸市福岡字在府小路地内
調査原因	個人住宅新築工事(第36次、第37次)、建物増築に伴う建設工事(第38次)
調査期間	令和3年4月19日～令和3年6月3日(第36次、第37次) 令和3年7月1日～令和3年8月5日(第38次)
調査面積	93 m <sup>2</sup> (第38次)、116.31 m <sup>2</sup> (第37次)、200 m <sup>2</sup> (第38次)
主な時代	中世～近世
主な遺構	井戸跡、掘立柱建物跡
主な遺物	国産陶磁器、銭貨、縄文土器

### ①遺跡の説明

在府小路遺跡は、福岡字在府小路地内に所在し、二ノ丸大手の南、松の丸の東側に位置しています。当遺跡は、福岡城期の武家屋敷跡とされ、これまでの発掘調査によって九戸城に近い西側を中心に道路側溝遺構や敷石状遺構、竪穴遺構、掘立柱建物跡などが確認されています。一方遺跡の東側では、縄文時代の遺構、遺物が中心で確認されています。平成26年度の調査では、縄文時代中期末から後期前葉の竪穴住居跡、土器、石器などがまとまって出土しています。

### ②調査の内容・結果

今年度は、個人住宅新築工事2箇所、建物増築に伴う建設工事1箇所の発掘調査を実施しました。調査箇所は、いずれも松の丸の東側で、第36次調査は、約130m、第37次調査は、約200m、第38次調査は、約230mに位置しています。表土を重機で掘削後、人力によって発掘調査を進めました。第38次調査では通行を阻害しないため、調査区を分割して調査を実施しました。



第36次調査区全景（南東から）



第37次調査区全景（北から）

今回の調査では第36次調査で井戸跡1基、第37次調査で掘立柱建物2棟を確認しました。第38次調査では特に遺構は確認されませんでした。

井戸は、直径1.8m、深さ2.0m以上あり、埋土上層から直径30cm以上の河原石がまとまって検出されました。河原石は、井戸を埋める際に入れられたものと考えられます。

掘立柱建物は、長軸方向が異なる2棟が確認されました。建物は、柱が隣接する箇所があることから異なる時期の建物と推定されます。

第37次調査で確認された掘立柱建物柱穴の底面から大窯4期の丸皿が出土したことから福岡城期の遺構と思われます。



第38次調査区II全景（東から）



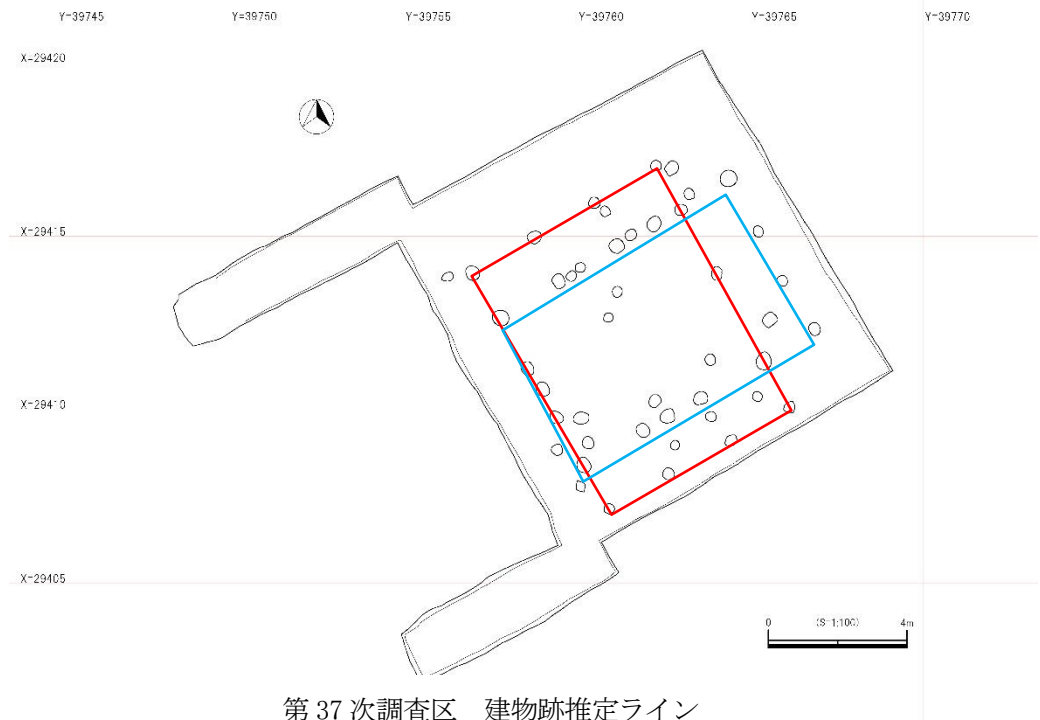
第38次調査区I全景（東から）



第36次調査 井戸跡（東から）



第36次調査 井戸跡断面（東から）



第37次調査区 建物跡推定ライン



## 語句説明

- 遺構 い こう 竪穴住居など地上に残された生活の痕跡のこと
- 遺物 い ぶつ 土器、石器などの生活道具のこと
- 攪乱 かく らん 遺構などが、新しい時代の耕作などによってかき回されている状態
- 地山 じ やま 自然のままの土、地盤のこと
- 検出 けん しゅつ 土をきれいにして遺構の土を見やすくする作業のこと
- 竪穴住居 たてあなじゅうきょ 縄文時代から古代に見られる地面をほり窪めて床とした住居のこと
- 竪穴遺構 たてあないこう 主に中世以降の竪穴式の建物をさし、工房などに使用された
- 掘立柱建物 ほったてぼしらたもの 地面に穴を掘り、礎石を用いずに柱を建てた建物のこと
- 土坑 ど こう 貯蔵などに用いられた様々な形の穴のこと
- 土師器 はじき 古代に使用された素焼きの土器
- 版築 はん ちく 土を層状につき固めて建物の基壇や壁、築地塀、城壁などをつくる方法
- 曲輪 くる わ 本丸や二ノ丸など城を構成する区画のこと
- 虎口 こ ぐち 城郭、城館の出入口のこと

